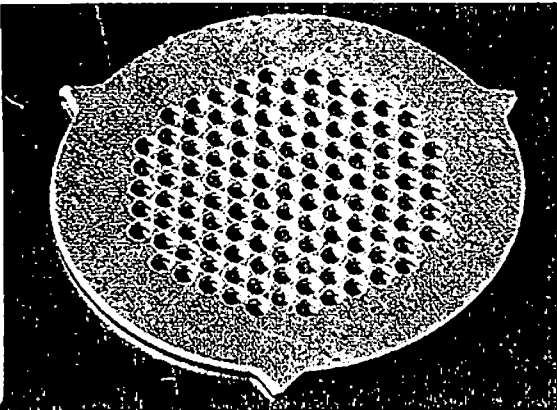


川崎

「川崎ものづくりブランド」

JKBの製品例。直径8.5ミリの中に、121個の穴をプレス加工で開けている＝同社提供



先端の製品、技術に

7社「部品」も初認定

川崎市内の中小企業が生んだ優れた工業製品を認定する第五回「川崎ものづくりブランド」に、七社の製品などが選ばれた。今回は「部品」自体も初めて認定。世界の携帯電話の三分の一で使われている微細な部品など、業界トップ級の独自技術で仕上げた部品が並んだ。

ものづくりブランドは、市内企業の技術力を広くアピールしようとして、市や川崎商工会議所などでつくる推進協議会が毎年認定。証書が贈られるほか、見本市での販促支援などが受けられる。

品が認定されたのは二社で、JKB（高津区）の金型プレス加工技術と、ブラザー（川崎区）の巨大なサイズの素材に対応したニッケルメッキ技術で作られた部品。

JKBでは、直径八・五ミリの範囲に百二十一個の穴を開けた微細な部品など、従来の技術では難しかった加工品を金型で作っている。

同社が手掛ける部品の中には、携帯電話の端子の部品として、世界中で使われているものもあるという。認定式は二月十二日、川崎区の商議所で開かれる。そのほかの認定製品は次の通り。

- 「なんでもイーサー」超小型イーサネット接続DCモーターコントロール（イクシスリサーチ・幸区）▽誘電率測定装置（エイイーティ・麻生区）▽ドライアイスプラスチック洗浄器「スーパーブラスト」（協同インターナショナル・宮前区）▽自走式テレビカメラ台「ロボットペダスタル」（昭特製作所・高津区）▽ドライフレコター「クピレ」（東

信電気・麻生区）